

名詞・形容詞の修飾

英作をする上では、「いかに名詞・形容詞を修飾するか」が鍵になる。

例えば関係代名詞も、

This is **the chair** (which) **he made.**
イス 彼がつくった



と、後ろから名詞を修飾しているわけだ。

そこで、このファイルでは名詞や形容詞を効率的に修飾する方法を考えてみる。

まず、名詞を修飾するのに使うのが、形容詞だ。

形容詞 → 名詞を修飾

副詞 → 名詞以外を修飾

形容詞の使い方は、
大きく分けて2種類ある。

形容詞の使い方

①補語として使う。

②名詞を修飾する。

まず、

①補語として使う。

だけど、例文で考えると、

My mother is famous.

私の母は有名だ。

My mother = famous が成立する
から、famous は C (補語) だ。

つまり、SVC (第 2 文型) の
C (補語) になるということだね。

そして、

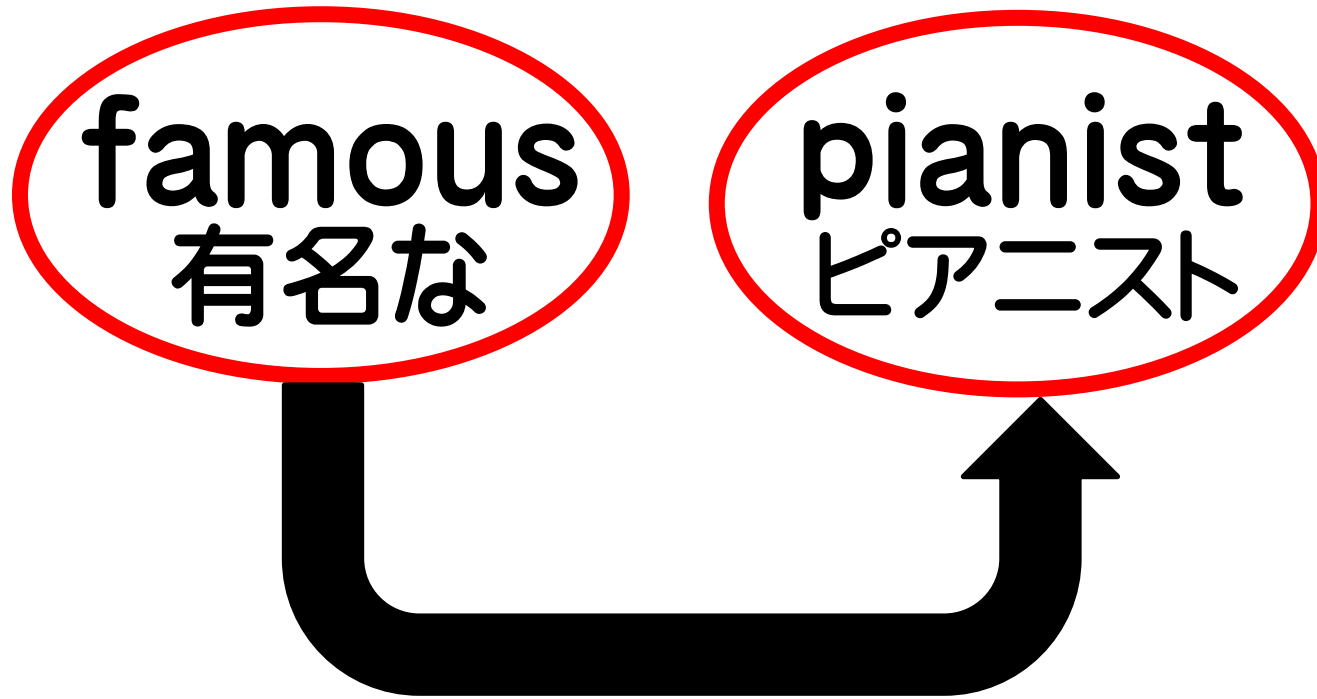
②名詞を修飾する。

これは、

My mother is a famous pianist.

私の母は有名なピアニストだ。

のように、



前の形容詞が後の名詞を
修飾する形だ。

このように、形容詞には2つの使い方がある。

では、その形容詞自体を修飾するにはどうするか？

たとえば、

My mother is famous.の

famousを修飾する場合だけど、

↓ famousをvery(とても)で修飾すると

My mother is **very** famous.

私の母はととても有名だ。

となる。

この**very** は、後ろの**形容詞**を修飾しているわけだから、**副詞**だ。

→ **名詞以外を修飾 = 副詞**

また、

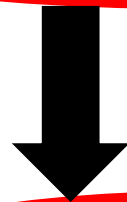
My mother is a famous pianist.

これも、famous を very で修飾すると、

My mother is a very famous pianist.

と後ろの famous を修飾して、

very famous



全体で

pianist

を修飾

しているわけだ。

このように基本的に形容詞は**前に**副詞を付けて修飾する。だけど、後ろに付ける場合もある。

たとえば、enough (十分に) を使う場合、
This is a big room.

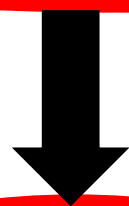


big に **enough** (十分に) を付けて修飾するなら、

This is a big **enough** room.

これは**十分に**大きい部屋だ
と後ろに付けることになる。そして、

big enough



全体で

room

を修飾

しているわけだ。

では、こういうのはどうだろう。

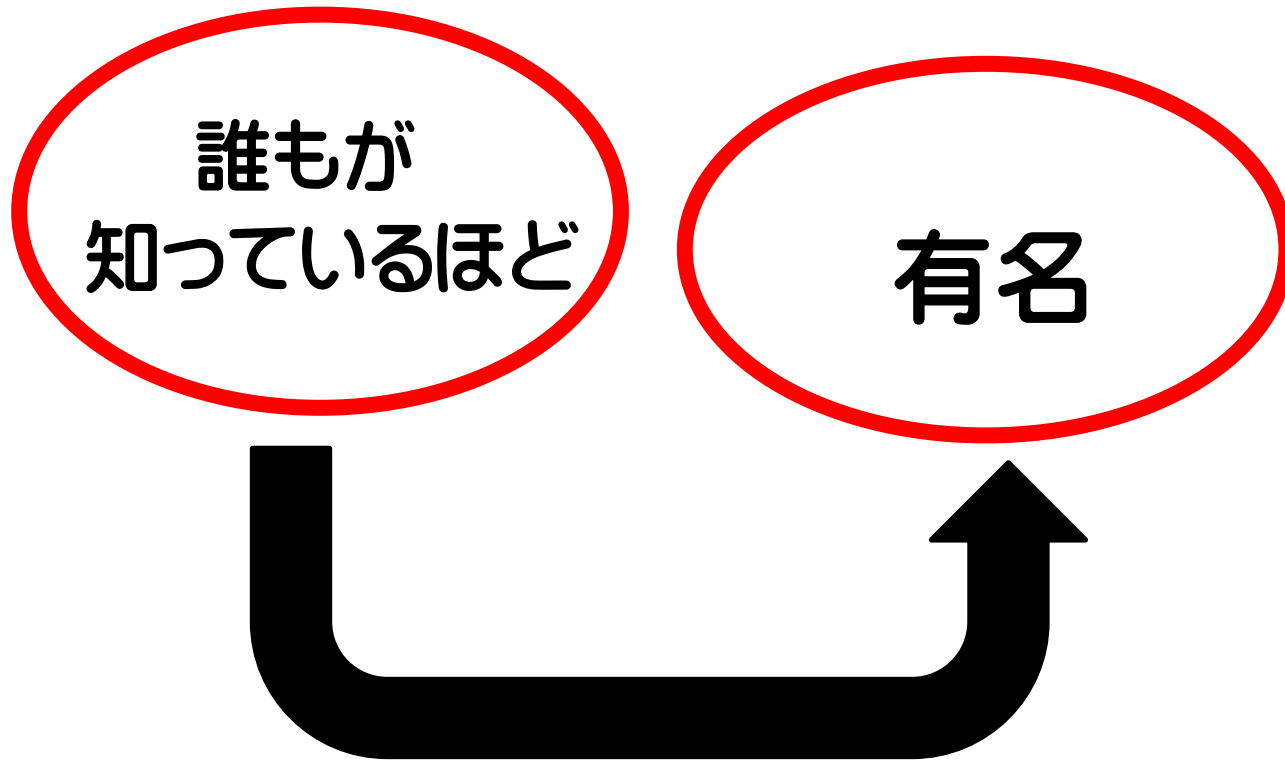
①私の母親は有名だ。

②私の母親は**誰もが知っているほど**有名だ。

①は My mother is famous. だ。

②は、①の famous (有名) を、

誰もが知っているほどで修飾しないといけない→文で単語を修飾しないといけない。



この場合に使うのが
so that 構文だ。

so that 構文を使って①の famous を修飾すると、
②My mother is **so famous that**
everyone knows her.

となる。

My mother is **so famous that**
有名 ← 程度に

everyone knows her.

みんなが彼女を知っている

私の母親は、

みんなが彼女を知っている程度に、

有名だ。

→私の母親は誰もが知っているほど
有名だ。 となる。

では次に、

①私の母親は有名なピアニストだ。

②私の母親は**誰もが知っているほど**有名な
ピアニストだ。

これはどうだろう。

まず①は

①My mother is a famous pianist.となる。

②は、①の famous (有名) を、
誰もが知っているほどで修飾しないと
いけない→文で単語を修飾しないと
いけない。

なので、so that 構文で famous を修飾
してみる。

My mother is a **so** famous pianist **that**
everyone knows her.

↑何も考えなければこうなるが、

実はこれは間違い。

この場合は、

My mother is **so** famous **a** pianist **that**
everyone knows her.

↑ とうように、**a** の位置を変えないといけない。

なので、

My mother is **so** famous **a** pianist **that**
everyone knows her.

↑ これが正解。正解なのだが・・・

少し語順がややこしい。

文法的には確かに正しいのだが、

so famous a pianist

↑この語順は古めかしい表現だ。

なので、

修飾

famous pianist.

と、名詞を修飾している形容詞の程度を修飾する場合は、so that ではなくて、

such that を使う。

なので、

① My mother is a famous pianist.



② My mother is **such** a famous pianist **that everyone knows her.**

とする。

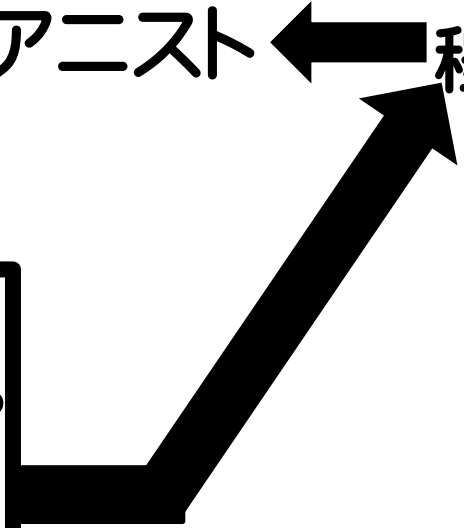
→これなら語順を変えなくていい。

My mother is **such** a famous pianist **that**

有名なピアニスト ← 程度に

everyone knows her.

みんなが彼女を知っている



私の母親は、

みんなが彼女を知っている程度に、

有名なピアニストだ。

→私の母親は誰もが知るほど
有名なピアニストだ。 となる。

簡単にまとめておくと、

主語 is 形容詞.

→ 主語 is so 形容詞 that~.

主語 is a 形容詞 名詞.

→ 主語 is such a 形容詞 名詞 that~.

だね。

このように、so that、such that は
形容詞の**程度**を修飾するのに有効だ。

(この文で言えば famous の程度→どれぐらい有名か。)

以上を踏まえて、最後にもう1パターンみ
て終わりにしよう。

I met a girl whose mother is
a **famous** pianist.

これは、関係代名詞①で使った例文だね。

a girl whose mother is a famous pianist.
少女 母親が有名なピアニストの

「母親が有名なピアニストの少女」

なので、

I met a girl whose mother is a famous pianist.

私は母親が有名なピアニストの少女に会った。
= 私は有名なピアニストを母親に持つ少女に会った。

となる文だ。今回は

I met a girl whose mother is a famous pianist.

↑ この famous を

such that で修飾してみよう。

(**主語** is a **形容詞 名詞**.)

→ **主語** is **such** a **形容詞 名詞** **that** ~.) のパターン。

すると、

I met a girl whose mother is
such a **famous** pianist **that**
everyone knows her.

和訳すると、

① I met a girl whose mother is a **famous** pianist.

私は「有名なピアニストを母親に持つ少女」に会った。



② I met a girl whose mother is **such a famous** pianist **that everyone knows her**.

私は「**誰もが知るほど**有名なピアニストを母親に持つ少女」に会った。

となる。

要するに、so that、such that による
形容詞の修飾は、

I met a girl

whose mother is a famous pianist.



この中でも同じように使える。

ということだね。

テクニックを組み合わせると、表現の幅が広がる👉